

# Check Walker

3rd

subject  
succession



チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズ株式会社

TEL 03-6205-8340

<https://www.checkpoint.com>

〒105-0001東京都港区虎ノ門1-2-8虎ノ門琴平タワー25F



## 名桜大学

ゴミ拾いをサークルから組織化へ

学生主体、ボランティア組織の運営方法と後輩へ伝えたい思い

## 企業特集【沖縄】

株式会社名護パイン園

ゆいまーる沖縄株式会社



# Engineer cafe

## contents

### Engineer cafe

エンジニアカフェ

中小企業が限られた予算で  
最適なランサムウェア対策を講じるには

チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズ株式会社  
セキュリティエキスパート Office of the CTO 高橋 弘之

### Thoughts of Workers

働く人達の想い

ゆいまーる沖縄株式会社 直販部 松田哲郎

株式会社名護パイン園 ナゴパインアップルパーク  
執行役員 支配人 日高 章

### Children for the future

未来を担う子ども達

名桜大学  
green bird 沖縄支部

4年生 兼 沖縄支部リーダー 山下寛人

### Check Point Topics

OKINAWAセキュリティサミット2023

### Advertisement

## 2023年 中小企業が限られた予算で 最適なランサムウェア対策を講じるには

2022年はサイバー攻撃をグッと身近に感じた一年だったと思います。私自身、SMB（中堅・中小企業）向けのチャネル・プリセールスとしてパートナー企業やお客様と日々対話をしますが、サイバー攻撃が巧妙化する中で中小企業のお客様の意識が変わりつつあることを実感しています。

昨年、多くのニュースとなった「サプライチェーン攻撃」は意識を変えた要因の一つでしょう。トヨタ自動車の取引先企業がきっかけとなったインシデントを皮切りに、今も復旧が続く大阪急性期・総合医療センターは同院の委託事業社が感染経路だったことが判明しました。大手企業を直接狙うのではなく、関連の中小企業から牙城を攻める狡猾なやり方が広まりつつあります。

事実、チェック・ポイントの脅威インテリジェンス部門であるCheck Point Research（以下、CPR）によると、2022年の全サイバー攻撃の61%が中小企業を狙ったものだったという報告がありました。中小企業でも医療記録や銀行口座といった機密情報を保持しており、これらの情報販売や、身代金の要求が可能なることから、サイバー犯罪者を惹きつける魅力の一端になっています。また、ランサムウェア攻撃による初期的な損失にとどまらず、機密保持法に違反することで罰金の対象となることもあり、大きな金銭的な打撃を受ける可能性があります。さらに、多くの中小企業がビジネス継続において重視している顧客からの信頼が大きく損傷するリスクを考えると、サイバー攻撃がどれほど大きな被害をもたらすか、理解できるでしょう。

中小企業がデジタル化を推進し、多くの新しいテクノロジーを採用し続ける一方で、サイバーリスクは増加の一途をたどります。ハイブリッドワークのためにリモートアクセスを容易にし、SaaSプラットフォームの利用など、かつてないほど多くのデバイスがインターネットに接続し、脅威にさらされるようになったのです。

では、中小企業はどのようにサイバーレジリエンスを高めればよいのでしょうか。



チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズ株式会社  
セキュリティエキスパート Office of the CTO 高橋 弘之





「はいさい」「ちばりよー」「めんそーれ」沖縄の方言を耳にしたり、知っている！と言う人は少なくないだろう。今回取材させていただいた会社は、社名に沖縄の言葉を使っている。ゆいまーる沖縄株式会社。「ゆいまーる」は“助け合い”という意味を持つ沖縄の言葉だ。

## 沖縄を自立させたい

「創業者である故 玉城幹男氏が創業前、上京先で沖縄出身という事でいわれなき差別を受けている現状を目の当たりにし、様々な仕事をしながら、仲間たちと沖縄の環境や経済について勉強をしていました。そんな中、沖縄を自立させたいという思いが強くなり、1988年に沖縄そばや沖縄の食材を、沖縄県外にお店を構える沖縄料理の飲食店などに卸し始めたのが創業のきっかけです。」今回取材を受けていただいた松田哲郎氏もそんな沖縄の魅力を発信したいと思って入社したひとりだ。

## 沖縄の価値を高める

松田さんにいただいた名刺には、「沖縄の価値を創造する感動創出企業」と記載されている。ゆいまーる沖縄は、沖縄の文化的価値を創造・発信することで、社会に対して沖縄の持つ価値観やライフスタイルを提案

するソーシャルデザインカンパニーとして、様々な沖縄の良さを発信し事業を拡大させている。筆者含め読者の中には“沖縄＝観光地”というイメージが強いはずだ。その考えは間違いではないし、お土産や飲食、観光にお金を使ってもらうために秘策を練るのが一般的な企業の考えだと思う。しかし、ゆいまーる沖縄は少し思考が違う。当然会社としての利益は求めるが「自分たちだけが儲かることだけではなく、沖縄で活動する生産者など、沖縄におけるすべてのリソースを最大限活かすこと」を常に念頭に置き事業を進めている。筆者も流通業に従事したことがあり“ものづくり”に携わったことがある。経験から言うと【思いはあっても実現化する】ことには勇気がある。一般市場とズレが生じてしまい自己満足で終わってしまうケースが多いからだ。

「弊社社員はひとつの物が単に消費されるだけではなくその物の伸び代や可能性を見つける為に商品自体を磨き、輝かせる努力を惜しみません」と松田さんは言う。

## シマノネ

その究極系がシマノネではないだろうか。シマノネはゆいまーる沖縄が持つ独自ブランドだ。きっかけはゆいまーる沖縄株式

会社と沖縄県立芸術大学の協業だった。「長く愛され続ける、沖縄の新しいデザイン」として、【今の時代の感性にマッチしながらも一過性の流行に終わらないものを作る】この思いに共感してくれた沖縄県立芸大北村研究室の学生10名が参加。「おばあちゃんが持たせてくれたサングワー」や「故郷の渡嘉敷島で毎日眺めていた夕暮れの家」など、沖縄の自然、伝統文化など“今後も残していきたい沖縄の良いところ”をイメージの核として、それぞれの柄はデザインされてきた。そして、ずっと大切にしていきたい「島の根っ



**ゆいまーる沖縄株式会社**  
〒901-1104  
沖縄県島尻郡南風原町宮平652  
TEL：098-882-6990  
営業：9:00-18:00  
休日：土・日・祝日  
**ホームページ**  
<https://utaki.co.jp/>  
**ゆいまーる沖縄 本店**  
TEL：098-882-6995  
営業：10:30-18:00  
休日：第1・3木曜日 他  
**オンラインストア**  
<https://yuimarluokinawaweb.jp/>

こ」という意味からシマノネという名前は生まれた。「デザインブランド」として黒糖入り小箱やお茶入り缶、手ぬぐいやミニバッグなど多様な商品が展開され、県内高級ホテルやオンラインショップ、那覇空港で購入することができ、ブランドイメージとしても少しずつ認知されるようになってきた。



## 伝統継承とアップデート

ゆいまーる沖縄では「琉球で企画、原料調達、加工、製造されている商品をできるだけ取扱う」といった商品基準を設けている。昔から沖縄の伝統産業に関わることを生業としてきた生産者に声をかけ、古き良きものを生かしつつ、時代にマッチした新しい価値をお互いに納得する形で創造しなければならぬ。時には意見がぶつかることもある中で、【沖縄のために】という共通点を持って一緒に作っていく。

## 心構え

その様なやりとりの中、思いが形になった瞬間は感慨深いこともあるという。「不思議なことに一所懸命に取り組んだ商品ほど、必ず手に取ってもらえる品

になるんです。」  
筆者が“ものづくり”を経験したと先述したが、取材をする中で利益中心にもつくりを企画していた自分がとても恥ずかしくなった。「創業者が会社を立ち上げる前に、沖縄でどのような会社を創っていくかと、タイ、インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピンなど、東南アジアを3ヶ月も旅しながら創った会社です。それは私たちの根っこにあり、“心構え”として継承されています。」  
沖縄を想うことから始まり、沖縄の価値創造を目指す会社として、ひとつひとつ着実に進んできたゆいまーる沖縄。沖縄へ訪れた際は、是非一度商品を手には様々な思いを感じてほしい。



ゆいまーる沖縄株式会社 直販部 松田哲郎









# 自分たちが住む街をもっとキレイでもっとカッコイイ街にするために。

「おはようございます！」

早朝7時前、20歳前後の学生達が沖縄県名護市にある21世紀の森ビーチに続々と集合する。名桜大学4年生で認定NPO法人グリーンバード沖縄支部のリーダー山下寛人さん含む12名の学生達が元氣よく挨拶してくれた。月に2回ボランティアを実施おり、自身の通う名桜大学と、この21世紀の森ビーチのゴミ拾いを行っている。大学内ではこのゴミ拾い活動をサークルとして認知してもらい、友達の誘いやSNSで興味を持った学生達が主に活動する。そんな彼らに取材を申し込み思いを聞いてみた。

**ゴミ拾いという意識がない**

「この活動を始めてから、学校や

このビーチのゴミが減ってきたと実感します。」

と、大阪出身の1年生島山さんは語る。高校までずっと新体操をやってきた島山さん。「将来は体育教師になって母校で新体操を教えたいと思っています！」

明確な目標を持っていることに感心しながらも、なぜ体操とは似つかないゴミ拾いなのか？と質問してみた。

「きっかけは友人に誘われました。その友人は今日来ていませんが(笑) 僕自身朝早く活動することが好きなんです。先輩達もとても気さくに声掛けをしてくださり、変な言い方ですが”意識してゴミ拾いをしている”という感覚もありません。とにかく楽しいです！あと、自分自身、分別に対して意



識が向くようになりました。まだ1年生で数回しか参加していませんが、4年生になってもこの意識は持ち続け、活動は続けていきたいと思っています！」そう語ってくれた。

**捨てる人がいれば拾う人もいる**

もうひとり同じ1年生で取材日が初めての参加という、目(さっか)さんに話を聞いてみた。「先輩達がやさしく声掛けをしてくだり、参加しやすい環境でした！」と元氣に語ってくれた。もともと海や自然が大好きで、沖縄にある大学に進学を決めた。将来は沖縄県で就職を考えており、ウェディングプランナーを目指している。「海が好きなんです。でもその海がゴミだらけなのはとても嫌で“リゾート地を綺麗にしたい！”と

思って参加しました。」

今回参加したことで、朝から活動する楽しさを知り、この活動は是非続けていきたいと元氣に語ってくれた。

「今まではゴミを捨てている人がいても、見てみぬふりしている自分がありました。しかし、注意することは怖くて出来ませんが、その人が捨てたゴミを拾うことはできます。やはり自分が住んでいる街や、好きになった土地がゴミで汚れるのはとても嫌な気分になります。」

**活動のきっかけ**

島山さんも目さんも、このゴミ拾いの活動に対して共通の言葉を口にしていた。“楽しい！”と。これには4年間この活動に取り組んできた4年生の山下寛人さんが、継続のために試行錯誤した結

果の表れだと思う。

「この活動を始めた当初は、ただ黙々とゴミを拾っていました。」東京から名桜大学に進学し、サッカー部に所属していた山下さん。しかし2020年にコロナの影響を受け、サッカー部の活動がほぼ出来ない中、数人でこの21世紀の森ビーチで自主練習をしていた時だった。

「なんでこんなにゴミがあるのにそのまま放置されているのだろう・・・」

そう思った後の行動が早かった。当時オンライン授業が主流だった事を生かし、先生に許可を得てでゴミ拾いをしてくれる仲間を授業の中で募集。集まった数人でビーチのゴミ拾いを実施した。「すごい量でしたよ！45ℓのゴミ袋が50個以上も集まるくらいゴミを拾いました。」



県北部への高等教育研究機関設置を強く求める住民の要請により、沖縄県、名護市など周辺自治体が拠出した資金で設立された大学。2010年4月以降公立大学への移行。国際学部と人間健康学部があり、近年入学者が増えている。

〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1 <https://www.meio-u.ac.jp/>

**green bird** 「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した原宿表参道発信のプロジェクト。平成15年に特定非営利活動法人化。全国にそれぞれ活動拠点がありチームリーダーが存在し、拠点毎にゴミ拾いをおこなっている。

green bird 沖縄チーム <https://www.greenbird.jp/team/okinawa>



1年生 島山 馨 (左) 1年生 目 夏海 (右)



“ゴミを拾う、そしてゴミを捨てない”そういうコミュニティを作ろうと思い、先生達にアピール。サークルとして認めてもらい、学校からは部室を用意してもらった。また、しっかりとした組織活動を継続するために全国組織で活動している、特定NPO法人green birdの沖縄支部として加盟。山下さん自身は沖縄支部のリーダーとして活動に専念している。

### 継続と継承

「この活動を始めた当初は60名程参加者がいました。中には地元企業の方もボランティアとして参加されていたんですよ。ただ年々減っています（笑）」組織を立ち上げるまでは突っ走ってきた山下さん。自身が4年生になり卒業を意識する様になってから、組織の継続を心配している。「人が減っていくのをどう食い止めるか？学生じゃなくても、活動する人をどう集めていくのか？LINEグループ、Instagram、facebook・・・。とゴミを拾うことより、組織の継続について考える事が増えました（笑）」と山下さんは語る。



同じ運営チームで2年生の中野さんも同じ想いだ。

「今年から運営チームに入り、自分も色々と継続について考える様になりましたし、色々気づくことが多くあります。先ほど取材を受けていた1年生が『楽しい』と言ってきていましたが、これは山下さんが”どうすればゴミ拾いと意識しなくても人が集まってくれるか？”と考えた末の結論なんです。僕自身も参加した当初から先輩方が気さくに話をしてくださるから、『楽しい』と思えて今に至っています。僕はこの『楽しさとひとつの事を続ける大切さ』を次の世代に引き継ぎたいと思っています。大変ですが(笑)」

山下さんへ後輩達へのアドバイスを聞いてみた。

「不安しかないと思います。でも止まったらダメ！走りながら考え

ることが大事！という事を1番に伝えたいです。困難は誰にでもあります。立ち止まって考えることも大事ですが、組織のボスが立ち止まってクヨクヨしていたら、それを見る後輩達は不安に思ってしまう。そんな組織にだけはしたくありません。」

組織の経営者でもここまではっきりと言える人は少ないと思う。自信持って語る山下さんは、きっと一生懸命取り組んできたからこそ、堂々と自然に言えるのだと感心してしまう。

山下さんはこの経験を生かして、卒業後は海外青年協力隊として世界中の手助けをしたいと語ってくれた。この行動力と諦めない気持ち。そして本人の意志の強さと熱量を感じ、『取材をする時間』というより、色々と襟を正してもらった貴重な朝の時間になった。



名桜大学4年生 green bird 沖縄支部リーダー 山下寛人

名桜大学2年生 運営チームのひとり 中野圭将

# Check Point Topics

## OKINAWA サイバーセキュリティサミット2023

沖縄県那覇市にあるロジワールホテル那覇にて、2023年5月25日サイバーセキュリティセミナーを開催し沖縄県内の企業50社、100名近い方にご参加をいただきました。

セミナーでは沖縄県警察本部サイバー犯罪対策課の方をはじめ、ゲストの方にもご登壇いただき沖縄県内におけるサイバー犯罪の状況や、企業が身近に出来る対策方法など、昨今の脅威に対する備えの大切さをセミナーを通してお伝えすることが出来ました。

ご参加いただきました企業・団体の皆様  
お忙しい中ご来場いただき誠にありがとうございました!!





“ゴミを拾う、そしてゴミを捨てない”そういうコミュニティを作ろうと思い、先生達にアピール。サークルとして認めてもらい、学校からは部室を用意してもらった。また、しっかりとした組織活動を継続するために全国組織で活動している、特定NPO法人green birdの沖縄支部として加盟。山下さん自身は沖縄支部のリーダーとして活動に専念している。

### 継続と継承

「この活動を始めた当初は60名程参加者がいました。中には地元企業の方もボランティアとして参加されていたんですよ。ただ年々減っています（笑）」組織を立ち上げるまでは突っ走ってきた山下さん。自身が4年生になり卒業を意識する様になってから、組織の継続を心配している。「人が減っていくのをどう食い止めるか？学生じゃなくても、活動する人をどう集めていくのか？LINEグループ、Instagram、facebook・・・。とゴミを拾うことより、組織の継続について考える事が増えました（笑）」と山下さんは語る。



同じ運営チームで2年生の中野さんも同じ想いだ。「今年から運営チームに入り、自分も色々と継続について考える様になりましたし、色々気づくことが多くあります。先ほど取材を受けていた1年生が『楽しい』と言ってきていましたが、これは山下さんが”どうすればゴミ拾いと意識しなくても人が集まってくれるか？”と考えた末の結論なんです。僕自身も参加した当初から先輩方が気さくに話をしてくださるから、『楽しい』と思えて今に至っています。僕はこの『楽しさとひとつの事を続ける大切さ』を次の世代に引き継ぎたいと思っています。大変ですが(笑)」山下さんへ後輩達へのアドバイスを聞いてみた。「不安しかないと思います。でも止まったらダメ！走りながら考え

ることが大事！という事を一番に伝えたいです。困難は誰にでもあります。立ち止まって考えることも大事ですが、組織のボスが立ち止まってクヨクヨしていたら、それを見る後輩達は不安に思ってしまう。そんな組織にだけはしたくありません。」組織の経営者でもここまではっきりと言える人は少ないと思う。自信持って語る山下さんは、きっと一生懸命取り組んできたからこそ、堂々と自然に言えるのだと感心してしまう。山下さんはこの経験を生かして、卒業後は海外青年協力隊として世界中の手助けをしたいと語ってくれた。この行動力と諦めない気持ち。そして本人の意志の強さと熱量を感じ、『取材をする時間』というより、色々と襟を正してもらった貴重な朝の時間になった。



名桜大学4年生 green bird 沖縄支部リーダー 山下寛人



名桜大学2年生 運営チームのひとり 中野圭将

## Check Point SMB team

general manager

Kenta Sanada

sales manager

Shoichi Tamura

sales

Kayoko Katayama

Mizuho Sawabe

Mayuko Takano

Kiyoshi Ogura

engineer

Nobutaka Kobayashi

Hiroyuki Takahashi

Yoshiyasu Nakayama

marketing

Reona Sakurai



SMB公式 twitter

[https://twitter.com/check\\_smb](https://twitter.com/check_smb)

